

まちかど未来塾 だより



9月(September)

	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1
第1週						
	3	4	5	6	7	8
第2週						
	10	11	12	13	14	15
第3週			保育コーディネーター研修	親カフェ・ふらっと	メンター-MTG 10:30~	ペアレントプログラム 連続講座①
	17	18	19	20	21	22
第4週	敬老の日					国分寺市民福祉講座 14:00~16:00
	24	25	26	27	28	29
第5週						ペアレントプログラム 連続講座②

*お月謝の引き落としは13日(木)です

15日(土)「ペアレントプログラム6回連続講座」スタートします!



Mirai Letter 67



この夏の出来事

きっと日本中が魅了されたのではないのでしょうか? 78歳、スーパーボランティアの尾畠さん、「感謝状」を受け取る際には「あなたが親分?」(親分=あなたが一番偉いヒト?)と元気よく真面目そうな職員に聞き、「親分」という言葉にこんな使い方があったの?と、ほっこりさせられた人も多かったのではないのでしょうか?

それとは対照的に「障害者雇用水増し問題」~この「親分」に相当する人たちの質の悪さ、もう我慢できない!と感じた人たちも多かったのではないのでしょうか?

誰もが平等に社会参加の「共生社会」を理念として国の「親分たち」が率先してこの制度を推し進めていたはずの、肝心の中央省庁が数字を水増し、不正を行っていた。「ヒトとしていかなものか」、「障害者」をどのように捉えてきたのか?どこまで墜ちていくのだろうか?各省庁の「情けない親分」と呼ばれている人たちは?」

障害者の雇用はその企業の成長にもつながる⇒多様な働き方を推進し、企業の意識にも変化を及ぼす。障害者を排除するのではなく共生することで多くのメリットが生まれ、企業の意識も変化していく。先入観を持たずして当事者の声を聴きながらその人に合った環境調整をする。そうすることで共に活かされる。既に欧米では障害のある人たちと共生することで大きな利益を上げている会社も存在する。

働きたいのに雇ってもらえない障害者はたくさんいる。雇用政策を進める国が「不正」を働いていたとは、このような障害者に対しての払しょくしがたい事象に出会ったと思える文章があります。「生まれてくる命の中には、一定のパーセンテージで障害を持つ子どもがいます。彼らは誰かが必ず引き受けなければ、でも誰も引き受けたがらないそれを「僕が(私が)引き受けます!」と名乗りを上げてくれたのだと思います。(NPO法人はぁもにい)中央省庁の幹部は知るべきです。必ず一定の%で障害を持つ人たちがいることを、そしてたまたま自分は障害を持って生まれてこなかっただけなので、障害を持つ人たちと共存する社会を作る事はごくごく「あたりまえ」の事だということ、(T.Imou)